

西山地区森林整備ボランティア

12月5日（日）、遊佐町の稲川・西遊佐地区のクロマツ林（民有保安林）で、手鋸による枝打ち及び残材運搬集積作業等の森林整備ボランティア活動に参加しました。当日はくもりで海風も少なく、12月上旬としては暖かいボランティア活動に最適な天候に恵まれました。

この活動は、遊佐町民の生活や産業を守るクロマツ林の大切さを再認識するとともに、地域住民の力で保存していくことを目的として、平成9年度から12月第1日曜日を森林ボランティアの日と定めて森林整備活動を行っており、今回で14回目になります。

活動には、山形県庄内総合支庁、遊佐町、西遊佐小学校・稲川小学校みどりの少年団、両校の先生及び父兄、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会員等の地域の皆さんが集い、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターからも2名が参加し、総勢109名が汗を流しました。

遊佐町長、庄内総合支庁森林整備課森づくり推進室長、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会長の挨拶の後、事務局の担当者より枝打ち作業の仕方や残材集積について説明があり、作業が開始されました。

西遊佐・稲川小学校のみどりの少年団の皆さんは、防寒衣に身を包み、ヘルメットをかぶり、手に鋸を持って作業にかかりました。最初はクロマツの枝を切り落とすのに苦戦していた少年団の皆さんも時間の経過とともに早く作業が出来るようになりました。また、少年団の父兄の皆さんや先生方も子供達に負けずと作業に勢を出していました。

大勢のボランティア参加の皆さんの頑張りで、予定時間より早く作業が完了しクロマツ林が見違えるほど綺麗になりました。

最後に、整備されたクロマツ林の中で終了式が行われ、西遊佐・稲川小学校のみどりの少年団の数名から、「地域を風や砂から守ってくれているクロマツ林を大切にしたい」、「鋸でクロマツの枝を上手に切れるようになった」などの感想が述べられました。

